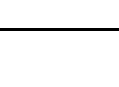


城西国際大学 全学（機関レベル）アセスメント・ポリシー
2024年度 アセスメント結果

ディプロマ・ポリシー	
DP1	社会人に求められる教養や規範的判断力を身に付け活用することができる。
DP2	論理的かつ批判的思考力及び判断力のもと、身に付けた専門的な知識・技能を活用することができる。
DP3	異なる価値観を認め合う寛容さと豊かな表現力を身に付け、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
DP4	国際社会、地域社会、産業界等において、主体的に課題を発見し解決に向けて行動することができる。
DP5	生涯にわたり自己研鑽を重ね、自己実現に向けた意欲を示し活動することができる。

#	アセスメント項目	アセスメント・プラン	対応するDP					責任主体		アセスメント結果
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5			
1	入学試験	各課程の自己点検にて入学定員充足率（5ヶ年平均）及び収容定員充足率を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		全学の入学定員充足率(5ヶ年平均)は0.81(0.41～1.03)、定員未充足の状況が続いており、改善が必要である。 全学の収容定員充足率は0.79(0.47～1.03)で、全体として収容定員の80％を下回っており、改善が必要である。 9学科のうち7学科で入学・収容定員とも未充足であり、入学定員・収容定員の適正化が求められる。
2	新入生調査	入学生を対象に新入生意識調査を実施。結果を集計し回答率及び設問ごとの肯定回答率を算出しアセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		全学の回答数は1,078、回答率は、94.73％(90.30～100.00％)と高い。肯定回答率では、「あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う」97.03％、「(この大学に)入学してよかったと思う」93.78％、「(学部・学科と自分の)興味関心が一致している、または興味関心に近い」93.16％等であった。大学・学部のアドミッション・ポリシー、人材育成の目標への理解に関する項目の肯定回答率は、88.96％から97.03％の範囲で全体的に高いといえる。回答率の高い調査であり、今後はこの活用が課題である。
3	外部ジェネリックスキルテスト	外部ジェネリックスキルテストの結果を集計し、アセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		受検率は35.94～100.00％と幅はあるものの、1年生の受検率は全学科で9割を超えており、上位学年の受検率向上が課題である。個々の評価について、学生とアドバイザーの面談をすべての学科で実施しており、個人のジェネリックスキルの評価への活用は適切である。思考力の全学平均スコアは2 極化しており、高スコア層では、学年が上がるにつれスコアが上昇したが、低スコア層ではスコアが下降しており、原因の検討や対策が必要である。現時点では得点の変化の分析にとどまっており、今後は各学部および全学の結果を分析し、教育改善に結びつけたい。
4	GPA（全学）	各課程の自己点検にて年間GPA分布と通算GPA分布を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		2024年度学部卒業生の通算GPA分布では、2.00以上の学生が全学の8割を超えており、平均GPAは2.64であった。各学部に通じて、年次進捗とともに高GPAが増加する傾向にある。低学年の2.00未満の学生への対応は、全学的に検討することにより、休学・退学者の低減にも結びつく可能性がある。
5	成績評価（全学）	各課程の自己点検にて主要授業科目の選定を実施し、その成績分布状況と単位修得率を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		今年度は評価せず。 (主要授業科目をシステム上で指定できるように更新予定である。)
6	履修状況（全学）	各課程の自己点検にて主要授業科目の選定を実施し、その履修登録率を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		今年度は評価せず。 (主要授業科目をシステム上で指定できるように更新予定である。)
7	検定/資格	各課程の自己点検にて各検定の受験者数・合格率・（スコア方式検定の場合）平均スコア等を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		経営情報学部では、23の検定・資格について調査しており、簿記検定試験、宅地建物取引士資格試験等、23の検定・資格で合計696人の受検(験)者・合格者を報告している。その他の学部では、TOEIC(6学科延べ640名受検)、中国語検定(18名受検)、ハングル能力検定試験(27名受検)等の語学能力試験・検定を中心にCG-ARTS Webデザイナー検定ベーシック(メディア学部)、旅程管理主任者資格(観光学部)等が報告された。本アセスメント項目では、検定・資格に関する調査方法・時期、報告の内容等を統一していないため、改めて検討・整備する必要がある。
8	在学生調査	在学生意識調査を実施し、各学部・研究科の自己点検にて調査回答率と各設問の肯定回答率を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		全学の回答数は3,250、回答率は61.18％(50.36～86.46％)であった。本調査はGPS-Academicのアンケート項目として実施している学年とJIU Portalで実施している学年があり、周知および回答率に差がみられていることから実施・周知方法の検討を要する。肯定回答率の高い項目には、「あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う」90.43％、「大学は、シラバスやガイダンスなどで個々の授業内容に対する情報を十分に提供している」90.49％等がある。カリキュラム、授業内容、教員、友人関係、窓口対応等、大学教育・学生生活への満足度は75.77％から87.45％の範囲で高く、良好である一方、学びへの取り組みの項目のうち、予習・復習、教員への質問、自主的な学習はいずれも6割程度の肯定回答率であり、主体的な学びを支援する対応が必要である。
9	海外プログラム	各課程の自己点検にて各海外プログラムの派遣学生数・参加率・（単位認定のある場合）単位修得率を報告対象として集計しアセスメントを行う。				○		大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		7学科において合計24の海外プログラムが計画され、21プログラムが実施された。派遣学生数は延べ332名、参加率は99.70％、単位取得率は99.70％であった。いずれも適切に実施されている。今後、プログラムの実施率を高め、参加者をより増やす対策が望まれる。
10	インターンシップ	各課程の自己点検にて各インターンシップの参加者数・参加率・（単位認定のある場合）単位修得率を報告対象として集計しアセスメントを行う。また、担当部局の自己点検にて正課外インターンシップについて受け入れ先数と参加者数を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○	○	○	○		大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		7学科で12の単位認定のあるインターンシップが実施され、計347名が参加した。329名が単位を取得し、単位取得率は94.81％で良好である。このうち63名は海外でのインターンシップであり、ハンガリー、台湾、カナダ、中国、マレーシアなどに派遣されている。 今回、正課外インターンシップについては集計していない。今後、報告の方法・内容を整備する必要がある。
11	プロジェクト/ボランティア活動/学会活動/課外活動等	各課程の自己点検にて各プロジェクト/ボランティア活動/学会活動/課外活動の参加者・参加率・（単位認定のある場合）単位修得率・活動成果を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○	○	○	○		大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		単位認定のあるプロジェクト教育は、8学科15プロジェクト、参加者329名、単位取得率は47.30～100.00％であった(参加者数、単位取得率未記載あり)。単位認定のあるボランティア活動は、4学科4プロジェクト、参加者200名、単位取得率92～100.00％であった(単位取得率未記載あり)。今後は、報告の方法・内容を整備し、学部横断プログラムや活動成果(学修成果)についてもアセスメントを実施できるよう計画する。
12	地域活動	各課程の自己点検にて各社会連携・社会貢献活動の活動概要の他、参加者と成果を報告対象として集計しアセスメントを行う。また、担当部局の自己点検にて全学社会連携・社会貢献活動について活動概要の他、参加者数と成果を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○		○	○		大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		全学科から計203件の地域活動報告があり、大学近隣地域を中心に多岐にわたる活動が実施されている。大学の地域貢献活動では、教育・技術の社会への還元、産学官連携による社会振興、自治体等と協働したまちづくりや地域や社会の課題解決が重要であり、いずれの活動も多く実施されていることが確認できた。次年度は社会貢献活動の分類や学生の参画等を考慮して評価できるよう、内容を整備する。
13	退学率/休学率/進級率	各課程の自己点検にて退学率・休学率・進級率を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		全学の退学率は2.68％(0.70～4.38％)であり、目標値である2.00％以下には至っておらず、全国平均の2.04％よりも高いことから改善を要する。一方、休学率は1.88％(0.89～4.38％)であり、全国平均の2.69％よりも低く抑えられている。進級率は、2年次進級96.91％、3年次進級96.90％、4年次進級97.44％であり、6年次進級(薬学部)以外は95％以上と進級率は高い。
14	学位授与	各課程の自己点検にて学位授与数・学位授与率を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		2024年度の学位授与数は1,409であり、学位授与率は4年(薬学部は6年)在籍者の93.13％(71.90～100.00％)であった。学位授与率はほとんどの学科で95％以上であり比較的高い水準ではあるものの、100％に近づくことが望ましい。今後、入学者数からの学位授与率についても算出し、評価する。
15	卒業後の進路	各課程の自己点検にて就職率と進学率を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○	○	○	○		大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		全学の就職率は81.75％(47.71～96.91％)、前年度より上昇しているものの、さらなる改善が必要である。ただし、就職課調査による内定率よりも低い数値が報告されている学科もあり、確認の必要がある。 大学院進学率は0.16％(0.00～1.75％)、大学院への進学者数は前年度より減少している。
16	卒業時調査	8月度卒業生及び3月度卒業生を対象に卒業生意識調査を実施。結果を集計し回答率及び設問ごとの肯定回答率を算出しアセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		卒業時調査(秋季(8月)卒業除く)には747名が回答し、回答率は、59.19％(21.13～102.50％)であった（重複回答の可能性あり）。回答率が低く、調査時期や方法の再検討が必要である。肯定回答率が高い項目には、JIUでの成長に関するものが多く、「相手の意見を丁寧に聴く力の向上」88.76％、「JIUに入学して成長したという実感」87.68％、「専門分野の知識の向上」86.75％などがあった。8割の学生が「総合的にみてJIUでの学生生活は充実していた」と回答した。
17	検定/資格（国家資格）	各課程の自己点検にて各国家資格の受験条件充足率・受験率・合格率を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		5学科で、8つの国家試験(社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、理学療法士、薬剤師、看護師、保健師、助産師)を受験した。受験率は6つの国家試験で100.00％であった。合格率は64.58～100.00％であり、難易度等の差があることから一概には評価できないが、介護福祉士、看護師、助産師の合格率は全国平均を上回っている。引き続き合格率向上のための対策が必要である。
18	養成課程	各課程の自己点検にて各養成課程の修了者数・修了率を報告対象として集計しアセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		教職課程の登録人数(最終学年開始時)は51名、修了者数は47名であり、修了率は92.16％と高い。教職課程以外では、6学科に9つの養成課程(日本語教員、児童英語指導員、介護福祉士、保育士、理学療法士、薬剤師、看護師、保健師、助産師)がある。募集人数に対し、登録人数が少ない課程が複数あり、改善を要する。養成課程修了率では、看護師、保健師、助産師が100.00％、理学療法士が97.26％と高い。
19	卒業生（OB・OG）調査	本学卒業生を対象に卒業生アンケートを実施。結果を集計し回答率及び設問ごとの肯定回答率を算出しアセスメントを行う。	○	○	○	○	○	大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会		卒業生調査は、2025年3月に2014年、2019年、2021年の卒業生2,277名を対象にGoogle Formによるオンライン回答形式で実施した。回答者は102名で回答率は4.48％と低く、回答率向上のために依頼方法等の改善が必要である。回答者の出身学科では、総合経営学科(22名)、メディア情報学科(21名)、医療薬学科(23名)が20名以上で多かった。在学中に積極的に取り組んだこととして「専門分野に関する勉強」(75.49％)、在学中に身に着いたと感じる能力では「学科の専門知識」(78.43％)の肯定回答率が高く、本学の専門人材育成への寄与が確認できた。現在の大学生が在学中に習得すべき知識や能力として、「コミュニケーション力」(96.08％)、「問題発見や解決する力」(91.18％)とするものも多く、ディプロマ・ポリシー(DP3、DP4)と共通する内容であった。

※アセスメント結果の（○●～○○）は、学科別の（最小値～最大値）を示す

緑：良好、黄：改善傾向・進行中、赤：改善課題、色なし：評価不能・未評価